

編 集 後 記

<城 所 侑>

早期胃癌の肉眼型分類が決められてから10年になり早期胃癌の症例数は膨大になった。それに伴って種々な形の早期胃癌が報告されたが、Ⅲ型早期胃癌の報告はきわめて少ない。

厳密に取り扱えば扱うほどⅢ型は難かしい問題を含んでいることは諸家の等しく認める所である。

本号ではこのようなⅢ型早期胃癌を主題として取りあげ、各方面における最先端の先生方に執筆していただいたもので、現段階における一つのステップを示すものである。

それぞれの立場からⅢ型早期胃癌の問題点を明らかにし読者に示していただいているので、これらの論文を通覧しそれらを理解したのち自分なりに問題点を考え、今後のⅢ型の理解に役立ちまた自分なりのⅢ型の概念が芽生えて来ることを感じられるものと思う。

先ず主題の各先生にはそれぞれの立場から問題点を浮彫りにして示していただいたことを有難く思う。また症例欄では外科の立場から古沢氏が、病理の立場から吉井氏が、また研究欄では臨床の立場から横山氏がⅢ型早期胃癌に関する見解を述べられた。

座談会では今日におけるⅢ型早期胃癌の問題が自由にまた活発に討論され、その問題点を描出しているので、参考になるものと思われる。

肉眼分類が決められてから10年を迎えて、むずかしい問題の多いⅢ型早期胃癌がとりあげられたが、今後の研究の参考として諸家のお役に立つ面が少なくないものとする。

<編集> 早期胃癌研究会